令和6年度
加西市　認知症地域支援推進員活動報告

【加西市】の認知症地域支援推進員について

1. 認知症地域支援推進員：　6　名

2. 認知症地域支援推進員の役割

（1）医療・介護等の支援ネットワーク構築

＊ 認知症の容態に応じて必要な医療や介護等のサービスが受けられるように関係機関との連携の構築

＊ 加西市認知症ハンドブック（ケアパス含む）、認知症サポーター養成講座の普及等

（2）認知症対応力の向上のための支援

＊ 介護者家族の会「楽・笑・介」や「絆カフェ」への参加

＊ 処遇困難事例の検討及び個別支援

＊ 介護保険施設等の相談員への支援

＊ 市民への認知症の理解を深める講座「あったか声かけ作戦」への参加

（3）相談支援・支援体制の構築

＊ 認知症の人や家族等への相談支援

＊「認知症初期集中支援チーム」との連携等による必要な支援が認知症の人や家族へ提供されるための調整

＊区長・民生委員等の地域住民と連携した地域福祉活動による認知症の人や家族への相談支援

報告者氏名:加西市長寿介護課　片浦　美穂
加西市社会福祉協議会　認知症地域支援推進員　廣瀬　美佳

【加西市】認知症施策の概要

	行政・包括	地　域
予　防	・いきいき100歳体操 ・サポーター養成講座開催 ・介護予防教室 ・相談支援（地域包括支援センター）	・サロン・介護予防教室 ・あったか声かけ作戦
早期発見（行政・地域包括支援センター）	・認知症高齢者等見守りSOSネットワーク ・認知症初期集中支援チーム ・認知症に係る支援対象者情報提供制度による連携 ・認知症早期対応促進事業 ・相談支援（地域包括支援センター）	・あったかシステム（小地域ネットワークシステム）（区長・民生委員等）
早期発見（見守り）	・認知症高齢者等見守りSOSネットワーク事前登録制度 ・認知症に係る支援対象者情報提供制度による連携 ・高齢者見守りシステムの構築（BLEタグ） ・ひとり外出高齢者等家族支援事業 （GPS・BLEタグの購入助成）	・認知症サポーター ・認知症キャラバンメイト
医療連携	・加西市医師会 ・認知症サポート医 ・市立加西病院 ・在宅医療、介護連携相談室（H30.2～） ・地域ケア個別会議	・かかりつけ医 ・認知症サポート医 ・歯科医師会 ・薬剤師会
地域連携	・認知症ハンドブック（認知症ケアパス） ・地域ケア個別会議	・絆（認知症）カフェ ・楽・笑・介
人材育成	・認知症ハンドブック（認知症ケアパス） ・ケアマネジャー等と連携	・認知症サポーター養成講座

加西市　認知症施策全体図

●かさいいきいき体操
●サロン　他

予防・地域啓発

●認知症高齢者
　見守り・ＳＯＳネットワーク
●認知症初期集中支援チーム　他

早期発見

●サポート医

医療連携

●在宅医療・介護相談室　他

地域連携

●絆カフェ
●楽・笑・介
●地域ケア個別会議　他

人材育成

●認知症サポーターの養成
●ケアマネジャー等との
　連携　他

標題①　～オレンジ折り鶴プロジェクト～

認知症カフェと住民などみんなでつながる認知症の広報啓発の取り組み

カフェの課題

加西市内の絆カフェ、普段はお茶をしながらのんびり
おしゃべりする場、介護者家族の参加が多く、
当事者がうまく輪に入れないこともあるが…

当事者の声

「月1回のカフェにくることが楽しみ」
「カフェに来たら誰かに会える」
「一緒になにかできたらいいな」
「みんなで(レクリエーションとか)できたら楽しいな」
「たくさん人が来てくれたらいいのにね」

推進員の思い

〇さりげない見守りや声かけ、
地域の人との変わらない関係性の維持や普段からの
つながりづくりが
地域での認知症支援に大切であることを伝えたい。

〇認知症になってもこんな生活がしたいという想い
がある方はいる。
当事者も自分の想いを発信できたり、できることをで
きる範囲で一緒に取り組める機会を作りたい。

〇若い人も地域の一員。認知症について知ってもらう
機会づくりを進めたい。

当事者参加や啓発活動の進め方に悩んでいたところ…

市内のきずなカフェから

うちの絆カフェで最近折り鶴を作っているんだけど、どこか飾れる場所はないかな？
　参加者の人と一緒に鶴を折ってるの。

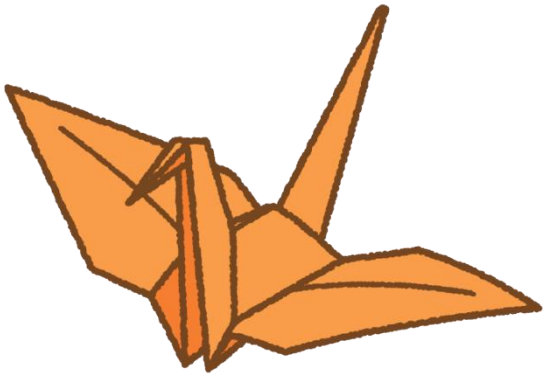
市内のきずなカフェを訪問している時に、こんな相談があった。飾れる場所か…話の中でひらめいた！

→飾れる場所もだけど、まだまだ数が少ないし、折り鶴づくりに学生や地域の人も一緒に取り組んでもらおう♪

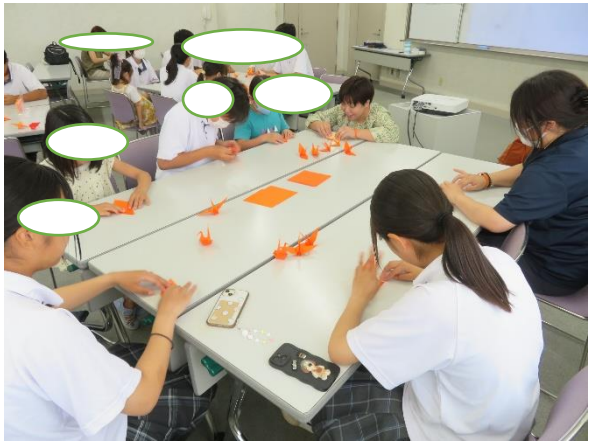
検討したこと

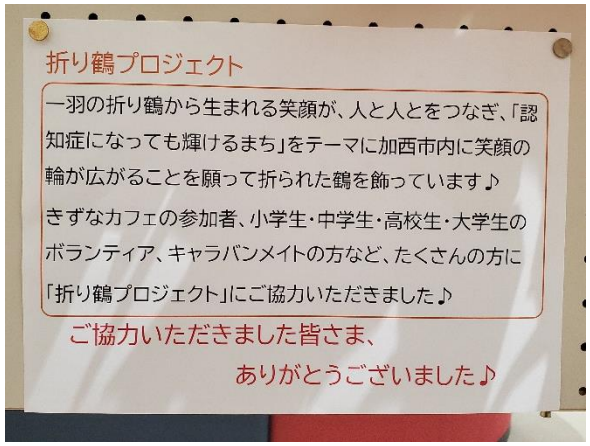
- 認知症当事者もその家族も参加できる場があることを若い世代にも知ってほしい
- “あたたかな気持ちで見守るよ”というメッセージとともに認知症になってもこんなことがしたいを伝えられる社会になるよう地域や当事者にも伝えたい

- 認知症の啓発カラーである“オレンジ色”をテーマとして折り鶴作成等に協力してくれる人を探す



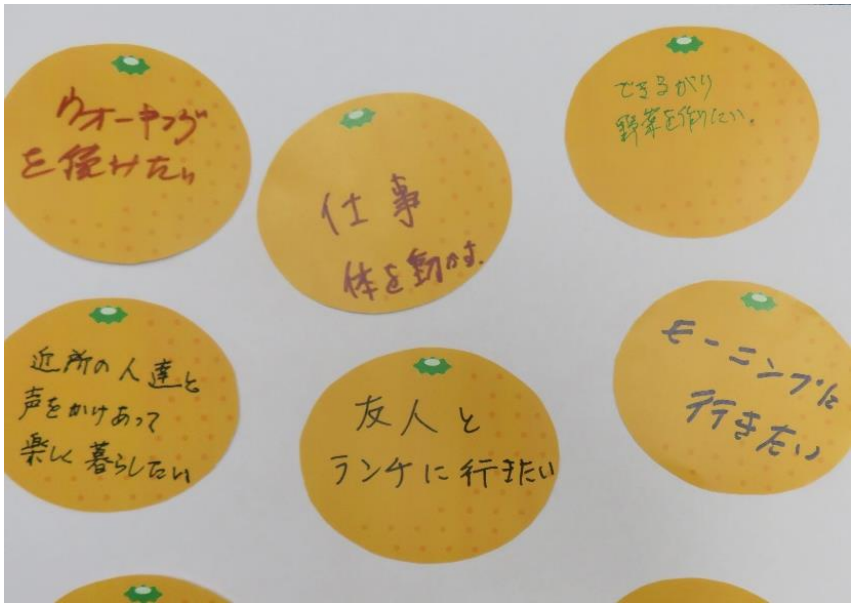
令和6年度認知症地域支援推進員具体的活動報告





認知症やその家族、こどもから高齢者まで、きずなカフェや7月～8月（夏休み期間）を利用し認知症サポーター養成講座を受講した子どもや地域の方も一緒にオレンジの折り鶴作成をみんなで行った。

令和6年度認知症地域支援推進員具体的活動報告



その他、認知症やその家族、こどもから高齢者まで地域住民とともに7月から準備を進める中で「認知症になってもこんなコトしたい！」をオレンジの紙に認知症サポーター養成講座やふれあいサロン等地域のつどいの場に参加される方にも記入いただき、オレンジツリーを作成。「お互いに認知症になってもこんなことができる地域だったらいいよね」というお話を共有したり、自分の想いを発信する機会づくりを行った。

令和6年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

作った折り鶴とオレンジツリーは認知症月間に掲示。オレンジツリーは9月中、オレンジのふせんを追加できるように設置すると、通りがかりの人が作成に協力し、展示終了時にはオレンジツリーの実がいっぱいになった。

- 最後に・・・

　認知症になっても住みやすいまちづくりは、子どもから高齢者、幅広い世代の方々が、自然と認知症を受け入れる土壌づくりからだと思います。既にあるつながりを通じて、地域の認知症支援が一歩一歩ゆっくりと進んでいくように、次年度も当事者やその家族、支援者の声、住民の声を聞きながら、活動を続けたいと思います。